

社会技術研究開発事業  
令和4年度研究開発実施報告書

「人と情報のエコシステム（HITE）」

研究開発領域

「ヘルスケアにおけるAIの利益をすべての人々にもた  
らすための市民と専門家の関与による持続可能なプラッ  
トフォームの設計」

「Ensuring the Benefits of AI in Healthcare for All:  
Designing a Sustainable Platform for Public and  
Professional Stakeholder Engagement」

研究代表者氏名 山本 ベバリーアン  
[大阪大学理事・副学長 国際（教育）担当  
大阪大学人間科学研究科教授（兼任）]

Executive Vice President of International  
Affairs (Education), Osaka University

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2 - 1. 研究開発目標 .....	2
2 - 2. 実施内容・結果 .....	2
2 - 3. 会議等の活動 .....	8
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	12
4. 研究開発実施体制 .....	12
5. 研究開発実施者 .....	13
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	14
6 - 1. シンポジウム等 .....	14
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	14
6 - 3. 論文発表 .....	14
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	15
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等 .....	15
6 - 6. 知財出願 .....	15

## 1. 研究開発プロジェクト名

「ヘルスケアにおけるAIの利益をすべての人々にもたらすための市民と専門家の関与による持続可能なプラットフォームの設計」

「Ensuring the Benefits of AI in Healthcare for All: Designing a Sustainable Platform for Public and Professional Stakeholder Engagement」

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2 - 1. 研究開発目標

本プロジェクト「ヘルスケアにおけるAIの利益をすべての人々にもたらすための市民と専門家の関与による持続可能なプラットフォームの設計」の呼称を「AIDE（エイド）プロジェクト」とします。

AIDEプロジェクト終了時の達成目標は、大阪大学およびオックスフォード大学の附属病院で導入を検討または開始している医療に関するAIの3～5の技術開発領域において、効果的なエンゲージメント・プラットフォームが機能した状態を維持することである。そのために、以下のことを達成目標とする。

- ・大阪大学で準備が先行している、医用画像診断の見落とし防止やリキッドバイオプシー等にAIを利用する「診断の精緻化」に関する技術開発領域と、音声認識によるカルテ自動入力等にAIを利用する「現場業務の負担軽減」に関する技術開発領域について、複数（3～5）の技術開発領域を選びプラットフォーム実装の対象とすることで、AIのタイプやフォーマット等の相違といった属性との関連性のもとで、ステークホルダー関与のメカニズムを得る。これを英国側と比較しながら、プラットフォームを共同設計する。

- ・本計画で実施する研究やワークショップの開催を通じて、ステークホルダーのなかでも特にこれまで意思決定に参加していなかった病院スタッフや、患者、市民が、具体的な医療におけるAIについての知識を持つ。

- ・本研究開発の文献レビューの結果や、ステークホルダーの特定や組織の方法、懸念への対処の仕方等をまとめて、AIの導入に取り組んでいる他の医療現場が実際に使える知識を含んだガイダンスを作成する。

### 2 - 2. 実施内容・結果

本プロジェクトでは、全期間を、準備フェーズと、それに続く3つの研究開発フェーズに分けて、このエンゲージメント・プラットフォームの設計を行う。各フェーズにおけるマイルストーンと、具体的な作業内容を示すワークパッケージ(WP)との関係を以下に示す。

**準備フェーズ：**以後の研究開発フェーズにおいて、医療へのAI導入を共同設計し実施する患者や市民の参加する「参加者パネル（委員会）」（PPIP）を構成し、すべてのフェーズで継続する。 WP1, 2

**第1フェーズ：**AIが導入されつつある医療（臨床）領域や用途の特定と、導入理由、ステークホルダーの関わりについての日英比較 WP1, 2, 3, 4

日本側は、第1フェーズ終了時を目途に、アドバイザリーボードを設立する。

**第2フェーズ**：医療へのAI導入におけるステークホルダーの特定と視点の分析、AIの様々な属性に対するステークホルダーによる優先順位づけとSTEEPLE(社会的、技術的、経済的、倫理的、政治的、法的および環境的)要因による影響評価 WP1, 2, 5, 6

**第3フェーズ**：ステークホルダーの持続的な関与を可能にするエンゲージメント・プラットフォームの設計 WP1, 2, 7

今年度、主に第2フェーズの内容を実施しました。

(1) スケジュール

実施項目	2019年度 (2020.1～ 2020.3)	2020年度 (2020.4～ 2021.3)	2021年度 (2021.4～ 2022.3)	2022年度 (2022.4～ 2023.3)
WP1. 両国間調整と発信・普及戦略	←————→			
WP2. 市民と患者の関与パネル	←————→			
WP3. 文献スコーピングレビュー ツイッター、ソーシャルメディア		←————→		
WP4.医療へのAI導入における ステークホルダーの識別		←————→		
WP5. 市民/患者/医療関係者の フォーカスグループ研究		←————→		←————→
WP6.ステートメントリストの 生成と評価			←————→	
WP7.ステークホルダーのエン ゲージメントプラットフォームの 開発		←————→		

(2) 各実施内容

**当該年度の到達点**

R3の研究活動を踏まえながらほぼ1年間の遅れで第2フェーズの質的調査を始める。フォーカスグループインタビューにより、医療へのAI導入におけるステークホルダーからのデータを収集しそれぞれの特長と視点の分析を行う。アウトプットについては、文献スコーピングレビューとツイッター分析の論文を作成する予定である。すべての研究活動についてPPIPとアドバイザリーボードとの役割を分析しながら

らco-productionのあり方と効果も評価する。以上がR4年度における大きな到達点である。それ踏まえて第3フェーズのステークホルダーの持続的な関与を可能にするエンゲージメント・プラットフォームの設計に関連する研究活動を集中的に行う。

#### 実施項目WP1：両国間調整と発信・普及戦略

オックスフォード大学と大阪大学側が同時に延長申請をし、2023年12月までのプロジェクトの期間延長を認められた。主に第2フェーズのWP5とWP6の実施に向かって、毎月オックスフォード大学側とコアミーティングおよび研究代表者ミーティングを開催し、必要に応じワークパッケージ毎のミーティングを開催した。オックスフォード大学側との対面ミーティングを3回開催できることになり、9月（山本）、12月（山本、加藤、古結）にオックスフォード大学を訪れ、WP2とWP5のデータ分析、WP6の準備そしてWP7についての議論を集中的に行った。さらに3月にはオックスフォード大学側チーム（Kaye, Shah, Coy）が来日し約2週間共同で研究を進めることが出来、WP5のデータ分析状況についての発表を、2回目ではWP6の結果とWP7への考えについての議論を行った。3月22日には吹田市文化会館メイシアターにて日英合同公開シンポジウムをハイブリッド形式で開催した。

大阪側は2023年1月26日（木）18:00～20:00オンラインでアドバイザリーボードミーティングを開催した。プロジェクトの主に第2フェーズのWP5とWP6の実施・準備について議論をし、WP7の進行にも重要なアドバイスを受けた。

一年中大阪側のAIDEプロジェクトのホームページに「お知らせ」を毎月作成し、プロジェクトおよび関連する医療についての情報を英語・日本語により発信した。

#### 実施項目WP2：患者と市民による参加者パネル(PPIP)の役割の現実化

PPIPミーティングを2回、オンラインで行った。7月14日のミーティングには、R3で行ったPPIPとのワークショップの結果分析とそれに関する学会発表を報告した。さらにWP5の進行状況と、PPIPからのフィードバックをどのようにWP5の3つのシナリオに反映したのかを説明した。R4の第2回のPPIPミーティングを12月15日に行い、WP5の分析の一部を紹介しフィードバックを得た。加えて、WP6ステートメント生成に向けた共同作業や、WP7ステークホルダー・エンゲージメントに向けた計画についての議論、そしてプロジェクト全体についてのまとめをそれぞれ行った。

#### 実施項目WP3：文献スコーピングレビューとツイッター分析の結果まとめ、共有と発表

WP3の医療AIの開発と実装に関するステークホルダー関与の実践を検討する文献スコーピングレビューのデータ分析を進めた。山本が9月オックスフォード大学に訪問した時にShahとCoyと一緒に最初に行ったデータ分析を深めた。ステークホルダー関与の強さを図るツール（intensity of involvement measure）を作成した。最初に行ったデータ収集をしてから時間が経過していたため、追加の文献調査を行う必要がありオックスフォード大学側の研究者が追加の調査を行った。12月に訪問した際に追加のデータを既存のデータと合わせて、最終的な分析を行った。

WP3のツイッター分析は、作成した論文の修正をオックスフォード大学側で行った。近いうちに国際論文誌に投稿する予定である。別に縦断的なツイッターデータを分析するため、オックスフォード大学の研究者がアルゴリズムを作成した。今後分析を進めていく予定である。

#### 実施項目WP4：医療へのAI導入におけるステークホルダーの識別

ラウンドテーブルミーティングの報告をメンバーと共有しフィードバックを得た。これは両大学の内部報告である。本ワークパッケージで得られた情報をもとに、ヘルスケアにおけるAIの実装のランドスケープを描きWP7のプラットフォーム設計に関する協議を行った。

#### 実施項目WP5：フォーカスグループ研究

新型コロナウイルス感染症拡大により、本パッケージの研究に12か月の遅れが生じている。令和4年では、まず第1四半期～第3四半期にかけてステークホルダーグループに対してフォーカスグループをオンラインで行った。フォーカスグループは、市民患者、医療従事者(HCPs)の2つのステークホルダーに対して行われた。市民患者グループを、PIIPの協力、ネットワークの活用、そしてウェブサイトでの呼びかけを通じてリクルートを行った。医療従事者グループは大きく3つに分け、医師によるグループ、看護師によるグループ、そして放射線技師や薬剤師などのAllied Health Care Professionals(医師・看護師以外の医療従事者)のグループとする。オックスフォード大学側と協力し、ヘルスケアにおけるAIについて実生活に即したシナリオを4つ作成した。これらのシナリオのうち、日本側のフォーカスグループで使用したシナリオ3つはAI技術の代表的な画像診断、自然言語処理(natural language processing)、ウェアラブル健康技術による緊急時警報システムである。PIIPからシナリオの説明文書、イラストや技術の例について議論した。それぞれのフォーカスグループでは、シナリオを提示した上で、いくつかの質問に基づいて議論してもらった。現在順次データ分析をおこなっているところである。

#### 実施項目WP6：ステートメントリストの生成と評価

第1四半期は、WP2,3,4の結果からステートメントリストを作成する作業を、昨年度から引き続き行った。第4四半期からは、WP5の分析結果のリストへの統合も開始した。今後の計画としては、日英のリストを比較し、Q-sort法用のリストを完成させる。12月に大阪大学の研究者がオックスフォード大学に訪問した時に、Q-sortソフトを検討し、実施方法の議論も行った。3月にオックスフォード大学の研究者が来日した時にステートメントリストの内容と説明の表現を議論した。Q-sort法を用いて、市民・患者とHCPsの2つのステークホルダー・グループ計約50人に、賛成・中立・反対の度合いと理由に応じてステートメントを並べ替えてもらい、医療へのAI導入への価値観を測定する。さらにクラスター分析を行なって各ステークホルダーグループの価値観のプロファイルを取得し、比較する。

### 実施項目WP7：エンゲージメントプラットフォーム設計

令和2年にはエンゲージメント・プラットフォームと戦略の文献調査をもとに事前レポートを作成した。それを踏まえてエンゲージメントプラットフォームの機能、関与のレベル(degrees of involvement)とコンテンツを2022年12月オックスフォード大学に訪問した時と2023年3月オックスフォード大学の研究者が来日した時に議論した。加えて、アドバイザリーボードミーティングでも議論を行った。その結果、AIDEプロジェクトを始めたときと比較すると医療AIの開発及びAIに関するPPIP活動が急激に計画されているということが分かった。こうした理由から、AIとステークホルダー・エンゲージメントプラットフォームに関する現在のランドスケープの状況のアップデートする必要がある。エンゲージメントプラットフォームに関する調査のアップデート後、プラットフォーム設計のための暫定的な推奨事項を作成する。その後、種々のステークホルダーグループと協議し、アイデアの実現可能性、持続可能性、関連性そして有用性についてのフィードバックを得る。これは第3四半期に行う予定であったがR5年度に行うこととなった。本プロジェクト終了後も引き続きプラットフォーム実装のための方法を探っていく。

## (3) 成果

### 実施項目WP1：両国間調整と発信・普及戦略

日英合同公開シンポジウムを大阪で開催できたことが大きな成果である。プロジェクトの進行は予定よりも遅れているが、研究期間の1年間の延長が承認されたため、当初の目標は達成できる見込みである。また、アドバイザリーボードから適切な指導を受けるとともに、プロジェクトとしての説明責任も果たした。

### 実施項目WP2：患者と市民による参加者パネル(PPIP)の役割の現実化

PPIPのミーティングによりWP5の内容を修正し、患者・市民に向けたより良い資料や質問ができた。

3月22日に日英合同公開シンポジウムに3人のPPIPメンバー（日本側は2人が対面で参加、英国側は1人がオンラインで参加）がAIDEプロジェクトへの参加に関する発表を行った。

PPIPメンバーは自身が所属する患者会などのホームページに、会議への参加について発表したり、患者会の冊子に報告したりすることによってAIDEプロジェクトのコンテンツなどの普及に繋がった。

2021年に行ったPPIPワークショップからのデータ分析を元について研究ノートとしてまとめて国際雑誌に提出し、現在査読中である。

### 実施項目WP3：文献スコーピングレビューとツイッター分析の結果まとめ、共有と発表

文献スコーピングレビューのデータ分析深めて、**関与の強さ (intensity of involvement measure)** を作成した。論文の作成を進めており、R5の夏頃を目標に国際学術雑誌に投稿する予定である。9月に結果を国際学会で発表した。

主なツイッター分析が完了し、論文作成もできた。R5の早い段階で国際学術雑誌に投稿する予定である。縦断的なツイッターデータを分析するためのアルゴリズムが作成された。

### 実施項目WP4：医療へのAI導入におけるステークホルダーの識別

ラウンドテーブルミーティングの報告はメンバーと共有しフィードバックを得た。それは両大学の内部報告である。WP6のステートメントリストの作成の一部が**内部報告から**作成された。本ワークパッケージで得られた情報をもとに、ヘルスケアにおけるAIの実装のランドスケープを描きWP7のプラットフォーム設計に関する協議を行った。

### 実施項目WP5：フォーカスグループ研究

多様なステークホルダーの共同作成プロセスによるWP5のシナリオが作成・評価された。リクルート活動によりインタビュー実施数は医療従事者の37人に対して市民・患者が26人になった。データ分析を行って主なテーマを見出した。

### 実施項目WP6：ステートメントリストの作成と評価

以前のワークパッケージの結果を踏まえて、ステートメントリストの作成が進んでいる。オックスフォード大学と大阪大学が使える**Q-sort**のソフトを確定し、データ収集できる仕組みを共同で作った。

### 実施項目WP7：エンゲージメントプラットフォーム設計

AIの開発から利用における各段階に、ステークホルダーの意見や視点を反映させることが重要であることを前提にエンゲージメントプラットフォーム設計を進めた。これまでに実施してきたPPIP活動、ウェブサイトの知らせ・報告機能、WP4のネットワーク作りなどが、**同時にWP7のエンゲージプラットフォーム設計の「例」と「実践」の一部となりうる**ことが3月の国際シンポジウムおよびその後の総括・アドバイザーとの面談を通して明らかになった。シンポジウムの時にイギリスと日本の医療AIの研究者、ステークホルダー関与の研究者、**患者・市民**などが一緒になって**医療AIとステークホルダー関与**をテーマとしてそれぞれの立場から発表した。

#### (4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

プロジェクトの達成目標に対する現在の進捗状況について、当初の予定よりも大幅に遅れている状況である。そのため、研究期間の1年間の延長をJST Ristex及びESRCに申請する必要があった。R4の計画についてもWP3の論文投稿、WP5のデータ分析の完成、またWP6のQ-Sort調査の実施が遅れている。主な遅れの原因は、新型コロナ禍の影響である。プロジェクトの最初の2年間は、すべての会議がオンラインでの開催になり、日英の会議は時差によって1時間程度の会議しかできなかったため進行が遅れが生じた。またイギリス側は特に病院関係者とのネットワーク活動が制限され、WP4及びWP5の進行が非常に難しくなった。R4には、初めて両国の研究チームが対面で研究の打ち合わせを行うことができた。また、新型コロナ禍の影響が弱らぐと共に患者・市民、医療従事者からのデータ収集ができるようになった。

R5の計画としては、最終年度となるためWP5のデータ分析を頃夏までには完了し、WP6のデータ収集とデータ分析に取り掛かる予定である。並行して、PIIPとの活動及び毎月オックスフォード大学側との研究代表者ミーティングを開催し、必要に応じワークショップ毎のミーティングを開催する。加えて、WP3, WP5及びWP6の研究活動からの比較論文を完成し、国際学術雑誌に投稿する予定である。最後に、今までの研究結果を踏まえ、PIIP、アドバイザーボード、AI医療開発者とも相談しながらプラットフォーム設計のためのモデル案を作成する。

#### 2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
年月日	名称	場所	概要
2022.4.21	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.5.6	第1回AIホスピタル事業推進会議、第1回AI医療センターコアメンバー会議	Zoom	
2022.5.11	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.5.13	ScR meeting with Oxford researchers	Zoom	ScR(文献スコーピングレビュー)に関する英国オックスフォード大学側とのミーティング
2022.5.13	Oxford PIIP meeting	Zoom	オックスフォード側PIIPミーティングに参加

2022.5.17	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.6.2	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.6.9	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.6.14	AIDE project team meeting	Zoom	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2022.6.16	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.6.21	AIDE WP6 Meeting	Zoom	WP6ステートメントリストの生成と評価に関するミーティング
2022.6.30	AIDE project principal and co-investigators' meeting	Zoom	日英の代表者と副代表者のリーダーミーティング
2022.7.12	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.7.14	AIDE project principal and co-investigators' meeting	Zoom	日英の代表者と副代表者のリーダーミーティング
2022.7.14	第6回 PPIP ミーティング	Zoom	日本側 PPIP ミーティング
2022.7.20	WP3 Twitter meeting	Zoom	WP3 ツイッター分析に関するミーティング
2022.7.25	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.8.18	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.8.29	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.8.30	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.9.13	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.10.14	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.10.18	AIDE WP6 Meeting	Zoom	WP6ステートメントリストの生成と評価に関するミーティング

2022.10.25	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.11.10	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.11.17	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.11.25	AIDE WP5 Core Group Meeting	Zoom	WP5フォーカスグループ研究に関するミーティング
2022.12.1	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2022.12.2	第10回AIDEプロジェクト阪大研究者ミーティング	Zoom	日本側研究者のミーティング
2022.12.6	AIDE project team meeting	Zoom	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2022.12.15	第7回 PPIP ミーティング	Zoom	日本側 PPIP ミーティング
2022.12.20	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.1.18	AIDE project team meeting	Zoom	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2023.1.20	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.1.24	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.1.30	AIDE project team meeting	Zoom	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2023.1.31	Meeting with one of the Oxford team members	Zoom	オックスフォード大学側研究者 Nisha とのミーティング
2023.2.1	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.2.8	ScR Meeting with Oxford researchers	Zoom	オックスフォード大学側研究者 Nisha, Sara との ScR に関するミーティング
2023.2.14	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.2.20	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング

2023.2.22	ScR Meeting	Zoom	ScRに関するミーティング
2023.2.28	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.3.3	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.3.7	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング
2023.3.7	Pre-meeting for Symposium with PPIP members	Zoom	シンポジウムに向けたPPIPメンバーとの事前ミーティング
2023.3.13	AIDE project team meeting	医の倫理と公共政策学教室	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2023.3.13	Pre-meeting for Symposium with PPIP members	Zoom	シンポジウムに向けたPPIPメンバーとの事前ミーティング
2023.3.14	AIDE project team meeting	医の倫理と公共政策学教室	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2023.3.15	AIDE project team meeting	医の倫理と公共政策学教室	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2023.3.16	AIDE project team meeting	医の倫理と公共政策学教室	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2023.3.20	AIDE project team meeting	医の倫理と公共政策学教室	オックスフォード大学側研究者とのミーティング
2023.3.20	Pre-meeting for Symposium with PPIP members	Zoom	シンポジウムに向けたPPIPメンバーとの事前ミーティング
2023.3.27	AIDE Core Group Meeting	Zoom	日本側コアメンバーによるミーティング

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

JST CRDSの15回のワークショップ（2021年9月）及び公開シンポジウム（2022年）において、研究から得られた知見（knowledge）をもとに学際的な交流の場を持つことができた。

PIIPの参加者は、自分の患者団体にAIDEプロジェクトの参加から得られた知識を共有していた。

大阪大学側のAIDEプロジェクトのウェブサイトおよびFacebookのページは、毎月国内外から多数のページビューがあり、国際シンポジウムの開催の前後には英語・日本語のHP及びFacebookを合わせて1週間で500件以上のページビューがあった。

以上の活動のように、AIDEプロジェクトは多様なステークホルダーへの医療AIに関する情報提供や交流の場の役割を果たしている。ステークホルダー関与を目標とする最終的なプラットフォーム設計は今までの研究活動の延長線上であると考えている。最終年度には、これまでに蓄積した知識及び方法を継続可能なステークホルダー関与プラットフォーム設計に適應する予定である。

### 4. 研究開発実施体制

研究統括・実施グループ（山本ベバリーアングループ）（単一グループで実施）

大阪大学大学院 人間科学研究科

大阪大学大学院 医学系研究科

大阪大学附属病院 未来医療開発部 臨床研究センター

大阪大学社会技術共創研究センター

大阪大学大学院 法学研究科

大阪大学 データビリティフロンティア機構

## 5. 研究開発実施者

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
山本 ベバリーアン	ヤマモト ベバリーアン	大阪大学	大学院人間科学研究科	教授
加藤 和人	カトウ カズト	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
木村 正	キムラ タダシ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
西田 幸二	ニシダ コウジ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
松村 泰志	マツムラ ヤスシ	国立病院機構大阪医療センター	国立病院機構大阪医療センター	院長
武田 理宏	タケダ トモヒロ	大阪大学	大学院医学系研究科	准教授
山本 洋一	ヤマモト ヨウイチ	大阪大学	附属病院 未来医療開発部 臨床研究センター	教授
福田 雅樹	フクダ マサキ	大阪大学	大学院法学研究科	教授
山本 奈津子	ヤマモト ナツコ	大阪大学	データビリティフロンティア機構/大阪大学大学院 医学系研究科	特任講師
古結 敦士	コゲツ アツシ	大阪大学	大学院医学系研究科	助教
相澤 弥生	アイザワ ヤヨイ	大阪大学	大学院医学系研究科	助教
Amelia Katirai	アメリア カテライ	大阪大学	大学院人間科学研究科	博士課程学生
Kang Seongeun	カン ソンウン	大阪大学	大学院医学系研究科	博士課程学生
黒田 真稚恵	クロダ マチエ	大阪大学	大学院医学英研究科	博士課程学生
LI YAN	リ エン	大阪大学	大学院人間科学研究科	特任研究員

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2023.3 .22	「AI医療への患者・市民と医療従事者の参画を考える」日英合同公開シンポジウム	AIDEプロジェクト (大阪大学・オックフォード大学)	吹田市文化会館メシアター／オンライン		

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

- (1) 書籍、フリーペーパー、DVD
  - ・ (タイトル、著者、発行者、発行年月等)
- (2) ウェブメディアの開設・運営
  - ・ 日本語ウェブサイト：AIDE project, <https://aide.osaka.jp> , 2020年9月公開
  - ・ 英語ウェブサイト：AIDE project, <https://en.aide.osaka.jp> , 2020年3月公開
  - ・ Facebook: AIDE Project-Japan, <https://www.facebook.com/aide.osaka.jp> , 2020年9月立ち上げ
  - ・ Twitter: AIDE Project Japan @AideProjectJP, <https://twitter.com/AideProjectJp>
- (3) 学会 (6-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等
  - ・ (シンポジウム等の名称、演題、年月日、場所を記載)

### 6-3. 論文発表

- (1) 査読付き (   0   件)
  - 国内誌 (   0   件)
  - ・
  - 国際誌 (   0   件)
  - ・
- (2) 査読なし (   0   件)

#### 6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議   2   件、国際会議   0   件）

- ・ Joint Conference, Ramathibodi – Hokkaido – Osaka University ~ Development of International Human Clinical Research ~, 「The benefits and challenges of implementing patient and public involvement in medical research and policy making: Introducing three projects at Osaka University」, 山本 ベバリーアン 2022年11月2日, 北海道大学
- ・ JST CRDS公開シンポジウム デジタル社会における新たなトラスト形成 「ステークホルダー関与、医療分野での実践事例」、山本 ベバリーアン 2023年1月10日、オンライン

(2) 口頭発表（国内会議   1   件、国際会議   0   件）

- ・ 山本ベバリーアン（大阪大学大学院人間科学研究科）, 「Stakeholder involvement and engagement in the development and implementation of Artificial Intelligence technologies in healthcare: A scoping review」, British Sociology Association, Medical Sociology Annual Conference, ランチェスター大学、英国、2022年9月14日

(3) ポスター発表（国内会議   0   件、国際会議   0   件）

・

#### 6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（  0   件）

・

(2) 受賞（  0   件）

・

(3) その他（  0   件）

・

#### 6-6. 知財出願

(1) 国内出願（  0   件）

・

(2) 海外出願（  0   件）

・ “